



2023年度「仕事とキャリアのアーカイブ構築事業」
250字のつづやき大募集！
第9回「仕事のルビー 働くサファイア」
～働く私を動かした言葉や出来事～
第9回
「仕事のルビー 働くサファイア」
～働く私を動かした言葉や出来事～
入選作品発表

当 NPO では、「仕事とキャリアのアーカイブ構築事業」として、職業キャリアに関する 250 字の投稿企画である第 9 回「仕事のルビー 働くサファイア ～働く私を動かした言葉や出来事～」を募集し、応募作品 249 点の中から入選作品 4 点を決定しましたので発表いたします。

《色とりどりの花束の中に》が キラリしごと大賞 に！

【募集概要と応募結果】

■企画趣旨 わが国では、現在前年同月に比べ 27 万が増え 6,726 万人の人々が働いておりますが、働く一人ひとりの職業キャリアには、必ずキラリと光る言葉や出来事があったはずですが、それを 250 字の投稿によって、働くことの意義や仕事のやり甲斐を共有し、「仕事とキャリアのアーカイブ」として集積し保存していくことを目的としています。2016 年以降 8 回実施し、いずれの年も専門誌やWEBサイトに掲載されるなど反響を頂いており、この度第 9 回の募集をいたしました。

なお、第 3 回からは「障がいのある人としごと～懸命に働く ともに働く～」をテーマとする「ガーネット賞」を株式会社イフの協賛のもとスタートしております。

■募集内容 働く私を動かした言葉や出来事に関する 250 字のつづやき
テーマ例：「仕事で励まされた一言」、「仕事で転機になったこと」等

■表彰 「キラリしごと大賞」(1 名)：賞状と副賞 (3 万円図書券)、「サファイア賞」(1 名)：賞状と副賞 (1 万円図書券)、「ルビー賞」(1 名)：賞状と副賞 (1 万円図書券)、「ガーネット賞」(1 名)：賞状と副賞 (1 万円図書券+イフ賞 1 万円クオカード)

■応募数：249 件 (男 100 女 149 自由記入 0) 第 1 回は 274 件、第 2 回は 420 件、第 3 回は、351 件、第 4 回は、509 件、第 5 回は、401 件、第 6 回は、568 件、第 7 回は、150 件。第 8 回は 349 件

■応募年齢：10 代から 80 歳以上まで。職業も医師、保育士、看護師、教員、公務員、作業員、



ピアノ講師、会社員、退職後主婦、定年後の方、パートアルバイト等様々。

■**選考** 2024年2月29日（木）に応募を締め切、4月10日（木）に認定NPO法人キャリア権推進ネットワーク選考委員会による選考を行いました。

■**選考委員**：委員長／諏訪康雄理事長

副委員長／菊池桃子理事（女優・戸板女子短期大学客員教授）

委員／当NPO理事及び担当部長、（株）イフ 川崎芳清社長

■**主催** 認定NPO法人 キャリア権推進ネットワーク

2024年6月10日

認定NPO法人キャリア権推進ネットワーク

〒103-0027 東京都中央区日本橋3丁目2番14号 新槇町ビル別館第一
理事長 諏訪康雄

お問合せ先 広報部長 川野晋太郎（090-6954-1270）

Email : info@career-ken.org

URL : <http://www.career-ken.org/>

【認定NPO法人 キャリア権推進ネットワークについて】

当NPOは、働く人々が希望する仕事を自ら選択し、仕事を通じて幸福を追求する権利である「キャリア権」の理念を広く社会に普及、浸透させることを目指して平成25年4月に発足し、そのための諸活動に取り組んでいます。

グローバル化、知識化する現代社会においては、働くために求められる新たな知識、技術、技能を習得する必要性が一層高まっており、また、人口、労働力の減少、高齢化が加速するなかで社会の活力や産業企業の競争力を維持、向上していくためには、働くことを希望するすべての人々が意欲に溢れて働くことができ社会を支える側に立ってもらえるようにすることが何よりも重要です。

性別、年齢、障がいの有無などにかかわらず誰もが十分な職業能力を身につけることができ、その能力が高く評価される社会、会社が変わってもそれまでの経験や知識、技術、技能が正当に評価される社会、職業生活の全期間を通じて一人ひとりのキャリアが断絶することなく可能な限り継続できる社会の実現を当NPOは目指します。

このため、企業には人事に当たり社員のキャリアの形成、展開に配慮されること、行政には雇用、教育等の政策の立案、推進においてキャリア権の尊重、保障を考慮すること、司法には労働関係の裁判、審判においてキャリア権の理念が浸透することを目指して、働く人々、企業、労働組合、学校、行政、志を同じくするNPO等と幅広く連携し効果的な活動をしています。



第9回 仕事のルビー 働くサファイア ～働く私を動かした言葉や出来事～ 入選作品

■キラリしごと大賞

ペンネーム あさだ りな 様 関東在住 30歳代

「色とりどりの花束の中に」

「どんな花束をご希望ですか？」恐らく初めてお花屋さんに足を踏み入れたであろう高校生くらいの男の子に声をかける。「あ、彼女にプレゼントしたいんですけど、こんな感じのイメージなんです。」とわたしにスマホの画面を見せてくれた。

てっきり、花束のイメージ写真だと思って覗いたら、そこにはにっこりとほほ笑む可愛らしい女の子の姿が。

以来、わたしは希望のお花の色だけでなく、渡す人の雰囲気やイメージ、思い出などをより詳しく聞きながら花を束ねている。

花束を抱え、喜んでくれる姿をお客様と一緒に思い浮かべながら。

<ご本人コメント>

そりゃ宝くじが当たれば仕事辞めたいなと思うし、長期休み明けの仕事はなんだか憂鬱。でも、仕事をしているとキラリと小さな嬉しい出来事がある。そんな一瞬で、些細なご褒美に気がつけるよう、前向きに。日々の仕事をがんばろうと思います。このたびは素敵な賞に選んでいただきありがとうございました。



■ルビー賞

ペンネーム しこ 様 関東在住 30歳代

「見てる、知ってる、覚えてくれてる」

高校から大学までオーストラリアに留学していた。就職後初めての年末休み、初めての里帰り。学生時代、長期休みの度に日本とオーストラリアを行き来するとき、入国カードの職業欄は、当然毎回「STUDENT」。だから今回初めて書いた、「TRANSLATOR」。メルボルン空港で何年も往来の番人を務める、陽気な入国審査官は、入国カードを見るなり、「おお、翻訳者か！仕事始めたのか！おめでとう、いい仕事だなあ、良かったなあ！」。そう言いながら、私のパスポートを開き、入国印をガシャンと押した。ウィンクまでつけて。

<ご本人コメント>

この度は、ありがとうございました。幼い頃からずっと、人生の中で、私が望む道を歩めるように私を支えてくれる人たち、頭を下げてくれる人たち、私を信じてくれている人たちがいるのだから、そのお気持ちに報いるように、恥ずかしくないように力を尽くそう、と出てきました。いやしかし、まさか、里帰り先の就職祝い、第一号が入国審査官って！思いもよらないところでずっと見てくれている人がいたのだ、と背筋が伸びました。あの審査官のおじさま、元気かなあ。



■サファイア賞

ペンネーム 天琳 様 関東在住 40 歳代

「心の「間」を大切に」

「焦っても手は二本、頭はひとつ。落ち着いていこう。」
単純な言葉だけど、ふっと一瞬手を止め、心と頭に「間」をもつことが出来る言葉。

ある営業所で働いていた時に先輩がかけてくれた言葉です。立ち上げたばかりの営業所で、上司や営業マンは業務外のことも含め、全て女性陣に丸投げのスタンス。事務員は先輩と私の二人だけ。「心に風邪を引かないよう、助け合おうね」と言って、いつも難しい案件はこっそり引き受けてくれた方でした。大変でもそんな先輩の右腕になりたいと思えたあの時間は今でも私の誇れる思い出になっています。

<ご本人コメント>

入賞のお知らせをいただいた時、嬉しさとともにあの頃支えてくれた先輩へのお礼を今やっと届けることができた気がしました。お礼の気持ち、そして今私自身が同僚や後輩に対して心がけていることを伝える機会をいただけたことに感謝しています。本当にありがとうございました。心の「間」を大切にし合える関係や環境が今よりもっと広がっていきますように。



■ガーネット賞

ペンネーム つぶあん 様 関東在住 30歳代

「仕事のプロ」

1年前、夫が双極性障害で倒れ休職となった。復帰しても安定せず、ポロポロこぼれ落ちて行く「今までできていた仕事」を懸命に拾い集める彼を見て、陰で泣いた。同じ業務が難しいと判断された彼には最近、新しい仕事ができる。倉庫の整理整頓、みんなが雑務と呼ぶような仕事だ。けれども今、彼は生き生きとしている。おざなりにされてきた倉庫の管理方法を統一・ルール化したことで倉庫の状況が一変し、感謝されているのだそう。「誰にでもできる仕事」を「誰にでもできない仕事」に仕上げる彼は、仕事のプロだなと背筋が伸びた。

<ご本人コメント>

この度は、このような賞をいただき誠にありがとうございます。夫が病気になってからというもの予想外の連続で、働くため・生きていくための壁に何度もぶつかり、長い間病気の波に揉まれてきました。双極性障害に限らず、病気は必ずしも「休めば治る」ものではありません。「薬を飲めば大丈夫」でもありません。本人も周囲も、元には戻れないことを受け入れるのに長い時間が必要だったと思います。拙い文章ではございますが、たくさんの方に助けていただきながら働き方を学んでいった夫の姿を少しでも伝えられていれば幸いです。